

2011 年度 入学 試験 問題

世界史 B

(試験時間 10:30~11:30 60分)

1. この問題は、入学願書提出時に選択した科目の問題です。科目名を確認のうえ、解答してください。
2. 解答用紙は、記述解答用紙とマーク解答用紙の2種類がありますので注意してください。
3. 解答は、必ず解答欄に記入してください。なお、解答欄以外に書くと無効となりますので注意してください。
4. 解答は、HBの鉛筆またはシャープペンシルを使用し、訂正する場合は、プラスチック製の消しゴムを使用してください。特に、マーク解答用紙には鉛筆のあとや消しくずを残さないでください。また、折りまげたり、汚したりしないでください。記述解答用紙の下敷きにマーク解答用紙を使用することは絶対にさけてください。
5. 解答用紙には、受験番号と氏名を必ず記入してください。
6. マーク解答用紙の受験番号および受験番号のマーク記入は、電算処理上非常に重要なので、誤記のないよう特に注意してください。

I つぎの文章 (A～D) は、ヴェトナムの歴史について述べたものである。よく読んで、下記の設問に答えなさい。なお、漢字は正確に書くこと。(34点)

A 東南アジアでは、前2000年くらいから稲作がおこなわれており、ヴェトナム北部では、前4世紀ごろ、その生産力を背景にしてドンソン文化^(a)が生まれた。この文化は、雲南や東北タイの文化的要素を受け入れながら発展したが、漢による支配の中で衰退し消滅した。

漢は紀元前111年からヴェトナム北部の支配を開始する。ヴェトナムが中国王朝の支配を受けた北属期の始まりである。漢の武帝は、積極的な対外拡張政策をとった。南方では(1)を滅ぼし、現在のヴェトナム北部に(2)・九真・日南^(b)の3郡を設置した。その後も、隋が604年、現在のハノイの地にヴェトナム北部全体の政庁である交州総管府を設置、唐もそれを引き継ぎ、679年には安南都護府^(c)を設置するなど、中国王朝によるヴェトナム北部への支配は続いた。この間、散発的な抵抗運動はあったが、中国の支配から脱することはできなかった。

B 唐が滅び、中国が混乱状態になると、ヴェトナムでは独立の機運が高まり、939年に中国からの独立が達成された。このときから1945年まで、ヴェトナムでは封建王朝が続くことになる。独立直後は諸王朝があいついで興亡したが、国家としての基盤が脆弱で、政権を長期間維持することはできなかった。つぎの李朝・陳朝の時代になると政権は安定し、王朝はあわせて約400年続いた。

李朝はヴェトナム最初の長期政権であり、1009年、李公蘊によって建国された。首都をハノイに置いて昇竜^{チンロン}と称し、また国号を(3)とした。李朝は中国王朝にならった国家建設に努め、中央集権的な基盤を整備し、学問を重んじて、科挙による人材登用も試みている。また、対外的には、北からの宋の侵攻を防ぎ、南の(4)を攻めて、領土を広げた。

つぎの陳朝は1225年に創始された。この時期には、政治制度や文化面で発展があり、黎文休によってヴェトナムの史書『(5)』が編纂^(d)されている。13世紀のアジアは、モンゴル帝国を抜きにして語れないが、ヴェトナムも例外ではない。陳朝は元の侵攻を3度受け、宮廷が南方に避難することもあったが、最終的には元

軍を撃退している。

C 1400年、陳朝の官僚であった胡季犛^{こきり}は王位を篡奪し、胡朝を創始した。そして、国号を大虞とするとともに、内政・軍事などにわたってかずかずの改革を行ない、前王朝に引き続いて（ 4 ）の侵攻をはかった。しかし、陳朝復興を名目にした明の介入を受け、1407年には明に併合されてしまい、胡朝は崩壊した。

この明軍を撃破したのは陳朝の武将であった黎利である。彼は、1428年に黎朝を創始、国号を（ 3 ）にもどすとともに、再びハノイを首都として、これを東京^{トンキン}と称した。黎朝は、聖宗の時代に最盛期を迎え、対内的には諸制度を整え、^(e)対外的には前王朝同様（ 4 ）を征討した。しかし、1527年、臣下の莫登庸によって王位が篡奪され、黎朝はここに一時中断する。これ以降、ヴェトナムは長期にわたる内乱の時代に突入する。黎朝は1532年に復活するも、名目的なものであり、実権は黎朝の臣下であった鄭氏や阮氏に握られていた。

1771年、阮氏の圧政が原因で、（ 6 ）党の乱がおきた。（ 6 ）軍は、まず阮氏を、そして鄭氏を滅ぼし、さらには清の援軍を入れた黎朝を1789年に滅ぼし、ついには（ 6 ）朝を創始した。一方、滅ぼされた阮氏の一族である阮福暎は、シャムや華僑、さらにはフランス人宣教師ピニョーの援助も得て、1802年に（ 6 ）朝を滅ぼした。そして、阮朝を創始し、年号を嘉隆とした。

D 19世紀半ば以降、ヴェトナムは列強の侵略をこうむり始めた。阮朝は、1883年の第1次（ 7 ）条約および翌年の第2次（ 7 ）条約によってフランスの保護国となり、その支配領域はヴェトナム中部地域に限定された。一方、清はこれらの条約を承認しなかった。そのため、清とフランスの間で清仏戦争が起き、その結果、1885年に天津条約が結ばれた。

^(f)第二次世界大戦中は日本軍に占領され、阮朝の皇帝（ 8 ）は、1945年に日本軍の後押しで独立を宣言したが、日本の敗戦とともに退位した。この阮朝の崩壊とともに、約1000年続いたヴェトナムの封建王朝時代は終わりを告げる。そして、同年9月には、民族統一戦線である（ 9 ）を組織していたホーチミンにより、ハノイでヴェトナム民主共和国の独立が宣言された。フランスによる植民地統治以^(g)

来の独立の悲願は、ここに一応達せられることになったのである。しかし、フランスがヴェトナムの支配を回復しようとしたため、1946年にはインドシナ戦争が勃発した。さらにフランスの支援を受けて、1949年には、サイゴンで(8)を元首とするヴェトナム国がつくられた。この戦乱の時代は、1975年のサイゴン陥落まで断続的に続くことになる。

設問1 空欄(1～9)に入るもっとも適切な語句を答えなさい。

設問2 下線部(a)について。ドンソン文化が栄えた地域で大量に生産され、中国南部から東南アジアの広い地域に分布していた、この文化に特徴的であるといわれるものは、つぎのうちどれか。1つ選んで、マーク解答用紙にマークしなさい。

- ① 銅鼓 ② 蟻鼻銭 ③ 灰陶 ④ 銅剣 ⑤ 銅鼎

設問3 下線部(b)について。日南郡に2世紀半ばローマからの使者が至った。この使者を遣わしたとされるローマ皇帝はだれか。その名前を答えなさい。

設問4 下線部(c)について。8世紀中期、安南都護府の長官(都護)に任命された日本人はだれか。その名前を答えなさい。

設問 5 下線部(d)について。チュノムはこの時期に体系化された文字であるが、それについて述べているものとして適切なものは、つぎのうちどれか。1つ選んで、マーク解答用紙にマークしなさい。

- ① 「偉大なる文字」という名称で知られる表音文字で、母音と子音を表わす文字からなる。
- ② 漢字をもとにして作られており、歌謡などを書く際に用いられていたが、現在は廃れている。
- ③ 漢字にならった複雑な字形で、ほとんどは表意文字である。多くの文献が残っており、現在はかなりの部分が解読されている。
- ④ 大字と小字からなり、大字は漢字をもとにしている。まったく廃れてしまい、解読もほとんど進んでいない。
- ⑤ 大字と小字からなり、作成者が明らかである。また解読がかなり進んでいる。

設問 6 下線部(e)について。このとき明の制度とともに取り入れられた、明の官学であり、12世紀に大成された新しい儒学は何か。その名称を答えなさい。

設問 7 下線部(f)について。この条約によりヴェトナムは中国王朝を中心とした国際秩序から離脱した。この国際秩序は何と称されるか。その名称を答えなさい。

設問 8 下線部(g)について。ヴェトナム独立の人材育成のためドンズー運動を提唱した人物はだれか。その名前を答えなさい。

設問9 下線部(h)について。インドシナ戦争は1954年の国際会議で停戦に至った。

この国際会議に関する記述として、誤っているものは、つぎのうちどれか。

1つ選んで、マーク解答用紙にマークしなさい。

- ① この会議の結果、東西冷戦の影響でベトナムが南北に分断された。
- ② この会議の結果、フランスがインドシナから撤退した。
- ③ この会議の結果、ラオスとカンボジアの独立が認められた。
- ④ ディエンビエンフー陥落が、この会議開催の契機となった。
- ⑤ アメリカもインドシナ戦争に参戦していたため、この会議に加わった。

II つぎの文章(A～C)は、パレスチナ地方とユダヤ人(ヘブライ人)の歴史について述べたものである。よく読んで、下記の設問に答えなさい。(32点)

A パレスチナ地方には、前1500年ごろにヘブライ人が移住・定着した。ヘブライ人は、その後何度か苦難を経験したが、バビロンに連れ去られていた住民が前6世紀に解放されてパレスチナの地に戻ると、自らの信仰の正しさを確信し、イェルサレムに神殿を再興してユダヤ教を確立した。

その後、この地にローマ帝国の支配が及んでくるなか、1世紀にイエスがユダヤ教の現状を批判したことが発端となって、キリスト教が成立した。キリスト教はローマ帝国で大いに広まり、パレスチナはキリスト教世界に組み込まれた。

しかし7世紀にイスラーム教が成立すると、パレスチナ地方に今度はイスラーム勢力の支配が及ぶようになり、それ以降オスマン帝国の滅亡まで、十字軍の時代を除き、パレスチナ地方は基本的にイスラーム勢力によって支配された。

このように、20世紀に入るまで、パレスチナ地方は、ユダヤ教・キリスト教・イスラーム教の勢力が入れ替わりつつ支配してきたのである。

B ユダヤ人(ヘブライ人)がパレスチナの地でユダヤ教を確立したのは前6世紀であったが、その後、ユダヤ人の多くはパレスチナの地を追われ、ヨーロッパや世界各地に離散していった。^(d)ヨーロッパにおいて、特に中世後期には、飢饉・疫病・戦乱などによって社会不安が増大するたびに、ユダヤ人は、他の社会的少数派とともに過酷な迫害に見舞われた。ユダヤ人は、差別と偏見の対象となっていたのである。^(e)こうした歴史のなかで重大な転機となったのが、19世紀末にフランスで起きたドレフュス事件である。これは、大尉であるドレフュスが軍部によりスパイの嫌疑をかけられ、終身刑の判決を受けたが、その後その無実が明らかになったという事件である。^(f)この事件がきっかけとなり、ヨーロッパのユダヤ人のあいだで、パレスチナの地に「帰還」しようというシオニズム運動が高揚していった。しかし、パレスチナにはすでに何世紀にもわたってイスラーム教を信仰するアラブ人が居住しており、ここにユダヤ人が「帰還」した場合、アラブ人との関係をどうするのかという重大な問題が生ずることになるのである。^(g)

C パレスチナ地方を支配していたオスマン帝国が第一次世界大戦で敗北し、^(h)パレスチナ地方は戦後、イギリスの委任統治領となった。イギリスは第一次大戦中に、戦争へのユダヤ人の協力を期待して、ユダヤ人が戦後パレスチナに民族的郷土を設立することを認めると約束しており、その趣旨に沿って多数のユダヤ人を移民としてパレスチナに受け入れた。その結果、ユダヤ人移民がイェルサレムで公然と祈りをおこなうようになったため、アラブ人とのあいだに武力衝突が発生した。ドイツでナチス政権が成立すると、パレスチナへのユダヤ人移民はますます増加し、パレスチナでの緊張はさらに高まった。

こうしたなか、アラブ諸国は1945年3月、アラブ連盟を結成し、アラブの統一行動を目指した。⁽ⁱ⁾第二次世界大戦が終結すると、イギリスによる委任統治の終了を機に、1947年、国際連合がパレスチナをユダヤ人地域とアラブ人地域に分割する案を決議した。しかし、両勢力の平和的共存は実現するに至らず、1948年、^(j)ついに戦争が勃発した（第1次中東戦争）。この戦争は翌年、アラブ側の大敗に終わり、国際連合の調停により、結局、ユダヤ人国家イスラエルだけが独立国として認められることとなった。その後、イスラエルとアラブ諸国とのあいだには、今日に至るまで、数度の戦争をはじめとする武力衝突が繰り返されている。^(k)

この間、イスラエルが戦争によって多くの地域を占領する一方、多数のアラブ人がパレスチナから追われ、難民となった。^(l)イスラエルはさらに1980年代に入ると、占領地を併合する動きを見せた。こうしたなか、アラブ諸国の結束には乱れも生じてきたが、他方では、アラブ人のあいだにイスラエルに対する強い抵抗姿勢も広まった。^(m)1993年にパレスチナ人の代表組織であるPLOとイスラエルとのあいだで合意が成立する^(o)など、和平への努力もおこなわれてはいるが、多くの難問が立ちはだかり、パレスチナにおけるユダヤ人国家とアラブ人国家の平和的共存はいまだに実現していない。

設問1 下線部(a)について。ユダヤ教徒の信仰の対象となっている神は、一般に何と呼ばれるか。その名前を答えなさい。

設問2 下線部(b)について。イスラーム勢力の支配下において、異教徒であるキリスト教徒やユダヤ教徒は、基本的にどのような処遇を受けたか。その記述としてもっとも適切なものを1つ選び、マーク解答用紙にマークしなさい。

- ① 「剣か、コーランか」と言われるように、イスラーム教に強制的に改宗させられた。
- ② イスラーム教に改宗しないかぎり、行動の自由は大きく制限され、人頭税や地租も課された。
- ③ イスラーム教に改宗しないかぎり、行動の自由は大きく制限されたが、人頭税や地租は課されなかった。
- ④ 自らの信仰や慣習の維持を認められたが、人頭税や地租を課された。
- ⑤ 自らの信仰や慣習の維持を認められ、人頭税や地租は課されなかった。

設問3 下線部(c)について。ユダヤ教・キリスト教・イスラーム教の各宗教にとってのイェルサレムの位置づけに関するつぎの記述(あ～う)は正しいか。それぞれについて、正しければ①を、誤っていれば②を、マーク解答用紙にマークしなさい。

- あ. イェルサレムは、モーセが神から、のちにユダヤ教の律法の中核を成すことになった十戒を授かった場所と伝えられており、ユダヤ教の聖地とされている。
- い. イエスの受難の地であるイェルサレムは、キリスト教の聖地とされ、11世紀ごろから生じた聖地巡礼熱の高まりのなか、ローマやサンティアゴ=コンポステラとともに多くの巡礼者を集めた。
- う. パレスチナ地方は1000年以上もイスラーム勢力の支配下にあったが、イスラーム教の開祖ムハンマドが活動したのはメッカやメディナであり、イェルサレムはイスラーム教の聖地とされていない。

設問 4 下線部(d)について。ユダヤ人は前 6 世紀以降，何度かパレスチナ地方から追われたが，そのうちもっとも大規模な離散のきっかけとなった出来事は，つぎのうちどれか。1つ選んで，マーク解答用紙にマークしなさい。

- ① パレスチナの住民がローマ帝国の支配に対する不満から反乱を起こし，ローマ帝国に鎮圧されたこと。
- ② パレスチナの住民がビザンツ帝国の支配下で圧制に苦しんだこと。
- ③ パレスチナ地方がセルジューク朝の支配下に入ったこと。
- ④ パレスチナ地方に最初の十字軍が派遣されたこと。
- ⑤ 第 1 回十字軍によって建国されたエルサレム王国をマムルーク朝が滅ぼしたこと。

設問 5 下線部(e)について。中世後期以降，ヨーロッパの諸都市では，ユダヤ人の「保護と安全のため」として彼らを強制的に隔離する居住区が作られ，そこでは劣悪な条件の下，さまざまな手工業が営まれたほか，学校なども設置され，居住区は自治団体として機能した。このようなユダヤ人居住区は，何と呼ばれたか。その名称を答えなさい。

設問 6 下線部(f)について。戯曲『ヴェニス商人』は，強欲なユダヤ人の高利貸を登場させており，ユダヤ人に対する偏見の描かれた作品としても有名である。この戯曲を書いた，16 世紀後半から 17 世紀初頭にかけて活躍した劇作家はだれか。その人名を答えなさい。

設問7 下線部(g)について。ドレフュス事件は反ユダヤ主義の現れとして理解されるが、それはなぜか。その理由として正しいものを1つ選び、マーク解答用紙にマークしなさい。

- ① ドレフュスがユダヤ系であり、国民の反ユダヤ感情が刺激されたから。
- ② 国民の反ユダヤ感情を利用しようとして、軍部はドレフュスがユダヤ系だと主張したが、これは虚偽だったから。
- ③ ドレフュスが自身の潔白を主張する際、自らがユダヤ系であることを否認せざるを得なかったから。
- ④ ユダヤ系であるドレフュスが、結局、再審で無罪判決を得られなかったから。
- ⑤ ドレフュスの権利擁護を社会に訴えた知識人たちも、反ユダヤ主義は批判しなかったから。

設問8 下線部(h)について。イギリスを含む一部の連合国は、第一次世界大戦中に秘密の取り決めを結び、オスマン帝国領を戦後どのように分割するかを決めていた。この取り決めは何と呼ばれているか。その名称を答えなさい。

設問9 下線部(i)について。つぎのうち、アラブ連盟の結成に参加した国として正しくないものはどれか。すべて選び、その番号を答えなさい。

- ① イラン ② イラク ③ シリア
- ④ サウジアラビア ⑤ リビア

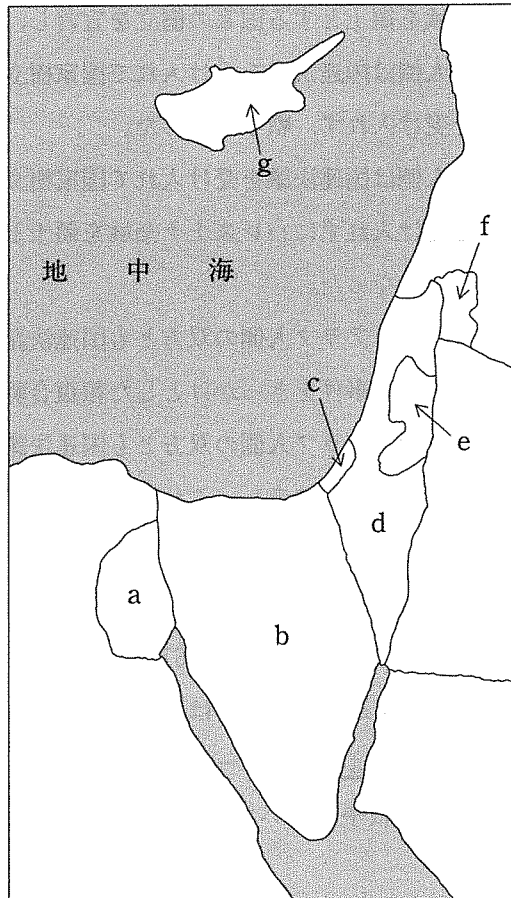
設問10 下線部(j)について。1947年の国連決議から第1次中東戦争の勃発に至る経緯はどのようなものであったか。その記述として正しいものを1つ選び、マーク解答用紙にマークしなさい。

- ① ユダヤ人側とアラブ人側の双方とも国連決議を受け入れず、双方がパレスチナ全域を領土とする国家の樹立を宣言し、戦争へと突入した。
- ② ユダヤ人側は国連決議を受け入れて国家樹立を宣言したが、アラブ人側はそれを受け入れず、戦争となった。
- ③ アラブ人側は国連決議を受け入れて国家樹立を宣言したが、ユダヤ人側はそれを受け入れずにパレスチナ全域を領土とする国家の樹立を宣言したため、戦争となった。
- ④ ユダヤ人側とアラブ人側の双方とも国連決議を受け入れたが、アラブ過激派によるテロ事件をきっかけとした報復合戦から戦争に突入した。
- ⑤ ユダヤ人側とアラブ人側の双方とも国連決議を受け入れたが、ユダヤ人側で内部の強硬派が独走し、これを抑え切れずに結局戦争に突入した。

設問11 下線部(k)について。イスラエルとアラブ諸国とのあいだで戦われた第2次(1956年～1957年)・第3次(1967年)・第4次(1973年)の「中東戦争」に関するつぎの記述(あ～う)は正しいか。それぞれについて、正しければ①を、誤っていれば②を、マーク解答用紙にマークしなさい。

- あ. 第2次中東戦争において、イスラエルは単独で、複数のアラブ諸国と戦った。
- い. 第3次中東戦争は、イスラエルによる奇襲攻撃で始まり、6日間で終結した。
- う. 第4次中東戦争の際、イスラエルを支援する諸国に対して、アラブ諸国は石油戦略を発動して圧力をかけた。

設問12 下線部(1)について。下の地図の地域a～gのうち、イスラエルが第1次中東戦争の休戦時点で国際的に認められた領土とは別に占領したことがある地域はどこか。当てはまるものの記号をすべて答えなさい。



設問13 下線部(2)について。アラブ連盟諸国はイスラエル国家を長いあいだ敵視してきたが、現在ではイスラエルとのあいだに平和条約を締結している国もある。このうち、イスラエルと最初に平和条約を締結した国はどこか。その国名を答えなさい。

設問14 下線部(n)について。1987年以降、占領地でアラブ人により展開されてきた、投石などによる抵抗運動は何と呼ばれるか。その名称を答えなさい。

設問15 下線部(o)について。PLOの設立された経緯はどのようなものであったか。その記述として正しいものを1つ選び、マーク解答用紙にマークしなさい。

- ① アラブ連盟結成時に、パレスチナ地方のアラブ人の代表組織として設立された。
- ② 1947年の国連決議を受けて、パレスチナ地方のアラブ人の代表組織として設立された。
- ③ 第1次中東戦争の休戦を受けて、パレスチナ地方のアラブ人およびパレスチナ難民の代表組織として設立された。
- ④ 第2次中東戦争の終結後、パレスチナ地方のアラブ人およびパレスチナ難民の代表組織として設立された。
- ⑤ 1982年のレバノンにおけるパレスチナ難民大虐殺事件を受けて、パレスチナ地方のアラブ人およびパレスチナ難民の代表組織として設立された。

設問16 下線部(o)について。この合意の主な内容はどのようなものであったか。その記述として正しいものを1つ選び、マーク解答用紙にマークしなさい。

- ① イスラエル軍が占領地から段階的に撤退し、PLOが暫定的に自治政府を組織する。
- ② イスラエルが占領地を併合し、その地域でPLOが自治政府を組織する。
- ③ イスラエルが占領地をヨルダンに割譲したうえで、その地域でPLOが自治政府を組織する。
- ④ PLOがイェルサレムに対する権利主張を放棄した時点で、パレスチナ国家が樹立される。
- ⑤ PLOが武力闘争の放棄を宣言した時点で、パレスチナ国家が樹立される。

III つぎの文章(A～E)は、スイスの都市の歴史について述べたものである。よく読んで、下記の設問に答えなさい。(34点)

A この都市の起源は、東フランク王国が843年の(1)条約によって獲得した領土に、修道院と王城を建設したことにさかのぼる。アルプス北側の入口という交通の要衝に位置することから、歴代神聖ローマ皇帝が好んで滞在し、11世紀初頭にはしばしば帝国議会が開催された。^(a)1218年には帝国都市に昇格し、東西と南北の交易ルートの交差点として発達していった。当初は騎士や大商人による自治がおこなわれていたが、経済の興隆とともに手工業者や小商人も市政参加を求め、1336年には(2)闘争を展開した。対外的には1351年、ハプスブルク家に対抗するスイス盟約者団に参加してその指導的地位を占め、1400年には自由都市の権利を獲得した。

1519年、ツヴィングリがこの都市で宗教改革を始めると、スイスの他地方やフランスから技術をもった宗教亡命者が多数集まり、都市は織物業により栄えた。政治的には、大商人による門閥的支配が長いあいだ続いたが、やがてフランス革命や七月革命の影響により改革がおこなわれ、民主化が進んだ。

B この都市は4世紀、ケルト人がレマン湖畔に形成した集落に始まる。6世紀末には司教が定住し、その支配下に発展した。13世紀前半には都市の自治組織を確立し、1434年に帝国都市となったが、司教との確執が続き、サヴォイア公家の介入を受けることになった。ベルンに救援を求めたこの都市は、1536年以降その支配下に入り、宗教改革を経験した結果、職業技術をもったフランス人亡命者を多数集め、産業都市として栄えた。やがてフランス革命を機にベルンからの独立運動を展開し、1803年のナポレオン調停条約により、正式にスイス連邦に加わった。

^(b)20世紀に入ると、この都市では、第一次世界大戦の戦後処理に関わる2つの重要な国際会議が開かれた。1つ目は、1920年の(3)条約に反対するトルコ共和国政府と、第一次大戦連合軍とのあいだで、1922年から23年にかけて開かれたものである。このとき新たに結ばれた条約により、トルコの国際的地位は保たれ、他方でカピチュレーションの廃棄、イギリスのキプロス島領有などが決められた。

つぎに1932年には、敗戦国ドイツの賠償問題に関する国際会議が開かれた。これはドイツの賠償額のさらなる引き下げと、旧連合国の対米戦債解消を決定し、第一次大戦の戦後処理に実質的な終止符を打つものであった。

C ガリア人の城塞として起こったこの都市は、前120年以降ローマに服従し、ローヌ川とレマン湖を利用した水上交易、および陸上交通の拠点として栄えた。ゲルマン人の大移動のうちに繰り返し攻撃を受けたが、400年ごろより司教所在地となり、443年にガリア東南部に建てられた(4)王国は、一時ここを首都とした。

(4)王国はフランク王国に滅ぼされるが、その後カール大帝が集会を催すなど、この都市の重要性は増していった。

1032年以降、この都市は神聖ローマ帝国に属したが、中世を通じて在地貴族と司教の争いに悩まされた。しかし1533年、都市の支配権をサヴォイア家に譲り渡そうとした司教が市民により追放され、1536年からはカルヴァンによる宗教改革が断行されるにいたり、ついに1603年、サヴォイア家からの独立が実現した。1798年、革命下のフランスに併合されたこの都市は、ナポレオン失脚後、1815年のウィーン会議およびパリ会議で、スイス連邦への加入を正式に承認された。

(c) 1857年に証券取引所が開設されて以降、ヨーロッパ金融業の一大中心地となったこの都市には、1863年、スイス人銀行家(5)の提唱により国際赤十字社が発足した。さらに第一次大戦後には国際連盟の本部が置かれ、1927年には日・英・米の軍縮会議が開かれるなど、永世中立国の代表都市として国際政治の檯舞台となった。現在も、国際連合ヨーロッパ本部のほか、ILO(国際労働機関)の常設事務局、WHO(世界保健機関)の本部などが置かれ、重要な国際会議も多く開かれている。

D ケルト人によってライン川上流に建設されたこの都市は、374年以降、ローマ帝国の城塞として史料に登場する。7世紀初めには司教居住地になり、ライン川に河港をもつ商業都市として発展していった。

14世紀後半に司教支配権から解放され、1386年以降、帝国都市としてしだいに都市国家の形態をとるとともに、ハプスブルク家の脅威に対抗するために、スイス

盟約者団と協力関係に入った。1431～39年にかけて公会議が開催され、1460年には大学が創設されるなど、地位を高めていったこの都市は、1501年、スイス盟約者団に正式に加入した。やがて16世紀最大の人文主義者（6）を迎え、文化運動の一大中心地となったこの都市でも、1528年以降、宗教改革が導入され、1536年にはカルヴァンの主著『キリスト教綱要』が出版された。当時、市参事会は（2）から選ばれていたが、市長などの要職は大商人を中心とする都市貴族にほぼ独占されていた。しかしその後、フランス七月革命の影響により自由化・民主化が進んだ。

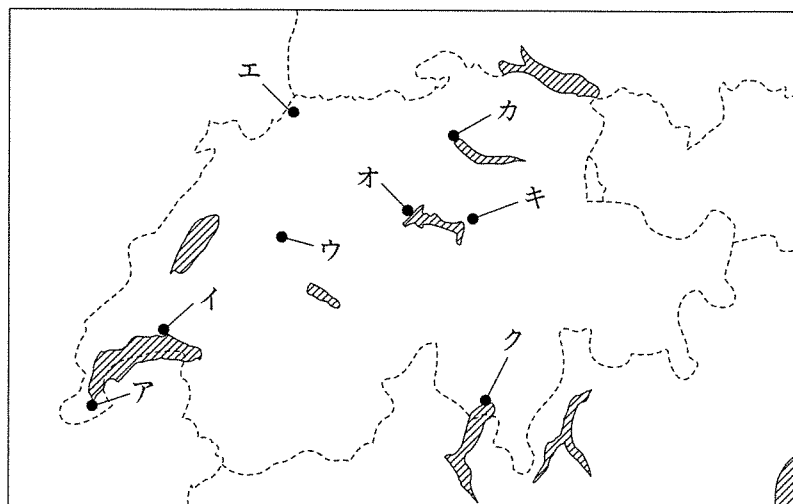
20世紀に入ると、第1次バルカン戦争の起こった1912年に、第2インターナショナルがこの都市で臨時大会を開いた。現在、この都市にはヨーロッパでも屈指の美術館があり、（6）の肖像画などで名高いホルバインの作品が多数収集されている。そのほかに、ゴシック様式の大聖堂や市庁舎などの建築物もよく知られている。

E カロリング朝時代に王宮所在地となったこの都市は、中世を通じて、コモ司教をはじめさまざまな領主の支配下に置かれた。14世紀には北イタリアの都市共和国の1つ（7）公国のヴィスコンティ家が、15世紀にはスフォルツァ家が直接統治をおこなった。1494年に始まったイタリア戦争では、フランス国王ルイ12世が（7）公国を攻める際、スイスに傭兵の提供を求めた。スイスはこれを契機として、1516年にこの都市を獲得し、共同支配地とした。この都市がスイス連邦に正式に加わったのは、1803年のナポレオン調停条約によってである。

1925年、ヨーロッパ7カ国がこの都市で会議を開いて、ラインラント非武装化を含めた現国境維持、相互不可侵、仲裁裁判条約などを内容とする安全保障条約を締結し、ドイツの国際連盟加入を認めた。この条約は、前年のドーズ案とともに、第一次大戦後のヨーロッパの国際関係を安定させる役割を果たし、英・仏・独の各外相には、1925年度のノーベル平和賞が贈られた。しかしその後、^(e)1936年にヒトラーがラインラント進駐を強行するにいたって、同条約は破棄された。

設問1 空欄（1～7）に入るもっとも適切な語句を答えなさい。

設問2 文章A～Eはそれぞれどの都市について述べたものか。その都市名を答えなさい。またそれぞれの都市の位置を下の地図上のア～クより選び、記号で答えなさい。



設問3 下線部(a)について。つぎのうち、神聖ローマ皇帝に関する記述として正しいものはどれか。1つ選んでマーク解答用紙にマークしなさい。

- ① ザクセン朝のハインリヒ1世は、ノルマン・マジャール・スラヴの侵入を撃退し、初代神聖ローマ皇帝となった。
- ② ベーメンとイタリアを制圧したオットー1世は、教会勢力を抑えるため、その領地を大諸侯に分与する帝国教会政策をとった。
- ③ 歴代の神聖ローマ皇帝は、教皇や教皇領の保護を理由としてたびたびイタリアに遠征し、ドイツ諸侯の台頭と帝国の弱体化を招いた。
- ④ ザリエル朝のハインリヒ4世は、聖職叙任権を教皇インノケンティウス3世と争って破門され、カノッサで^{ゆる}赦しを請うた。
- ⑤ シュタウフェン朝のフリードリヒ1世は、ロンバルディア同盟と戦ってこれを屈服させ、一時イタリアの統合に成功した。

設問4 下線部(b)について。この条約が締結された翌年、ナポレオンは皇帝として即位した。つぎのうち、即位後のナポレオンの事績はどれか。1つ選んでマーク解答用紙にマークしなさい。

- ① イタリア遠征
- ② エジプト遠征
- ③ 宗教協約（コンコルダート）の締結
- ④ フランス銀行の設立
- ⑤ ライン同盟（ライン連邦）の結成

設問5 下線部(c)について。つぎのうち、ウィーン会議がスイスに及ぼした影響に関する記述として正しいものはどれか。1つ選んでマーク解答用紙にマークしなさい。

- ① 「永久同盟」3州が自治権を獲得した。
- ② 13州が事実上の独立を達成した。
- ③ オランダとともに独立が国際的に承認された。
- ④ ^{あわ}併せて22州となり、永世中立国として承認された。
- ⑤ アメリカ合衆国にならった連邦憲法が制定された。

設問 6 下線部(d)について。つぎのうち、第 1 次バルカン戦争に関する記述として正しいものはどれか。1 つ選んでマーク解答用紙にマークしなさい。

- ① この戦争は、ロシアの影響のもとに結成されたバルカン同盟とオスマン帝国により戦われた。
- ② イタリアはこの機を利用し、オスマン帝国領のトリポリ・キレナイカを奪って植民地とした。
- ③ オーストリアは青年トルコ革命の混乱に乗じ、ボスニア・ヘルツェゴヴィナの併合を宣言した。
- ④ セルビアは、近隣のスラヴ人居住地域を統合する大セルビア主義を掲げ、オスマン帝国からの独立を果たした。
- ⑤ ブルガリアは包囲攻撃を受けて領土の多くを失い、以後ドイツ・オーストリアに接近した。

設問 7 下線部(e)について。このうち、フランス・ドイツの外相はそれぞれ誰か。その名前を答えなさい。

